

第 68 回 東海学生剣道優勝大会

第 44 回 東海女子学生剣道優勝大会 要項

1. 日	時	2021年9月23日(木・祝)	第68回東海学生剣道優勝大会	
		25日(土)	第44回東海女子学生剣道優勝大会	
2. 場	所	第68回東海学生剣道優勝大会	: スカイホール豊田	
		第44回東海女子学生剣道優勝大会	: 枇杷島スポーツセンター	
3. 主	催	東海学生剣道連盟	毎日新聞社	
4. 後	援	東海四県剣道連盟	東海学連剣友会	
5. 試	合	種	目	男女団体試合
6. 参	加	校		校(男子 校・女子 校)

現在、未定

7. 試 合 方 法
男・女とも団体戦を行う。男子団体戦は、1部16校、2部___校の夫々で、4ブロックに分けて予選リーグと予選リーグ各ブロック上位2校による決勝トーナメントを行う。また、1部決勝トーナメント1回戦敗退校による全日出場権決定の敗者復活戦を行う。

女子団体戦は、8ブロックに分けて予選リーグと予選リーグ各ブロック上位2校による決勝トーナメントを行う。また、決勝トーナメント2回戦敗退校による全日出場権決定の敗者復活戦を行う。

※チームの人数が定員に満たない場合の選手配置について

7人制の場合 五将、三将、次鋒の順に選手を置かないこととする。

5人制の場合 次鋒、副将の順に選手を置かないこととする。

8. チームの勝敗の決定方法

・予選リーグの順位の決定方法

チームの勝敗決定方法は、次の通りとする。

①勝者数による。②勝者数同数の場合は、総取得本数による。③勝者数、取得本数同数の場合、予選リーグは引き分けとし、決勝トーナメント・敗者復活戦は共に、代表者戦を行う。

予選リーグ各ブロックの上位2チームの決定方法は次の通りとする。

①チームの勝数による。②チームの勝数同数の場合は、チームの負け数が少ない方。③チームの勝数、負け数同数の場合は、リーグ戦での総勝者数による。④総勝者数同数の場合は、リーグ戦での総取得本数による。⑤上記の①～④が同数の場合は、各ブロック1位2位決定の代表者戦を行う。

9. 試 合 時 間

試合時間は、予選リーグ男女とも3.5分、決勝トーナメント・敗者復活戦は、男女とも4分とし、勝敗が決せざる場合は、引き分けとする。代表者戦は、男女とも任意の選手による3.5分1本勝負、延長は3分で時間を区切り行う。

10. 出 場 資 格

出場選手は連盟に個人登録されている者で、登録回数4回(6年制大学並びに6年制部学科は6回、3年制短期大学並びに3年制学部学科は3回、短期大学は2回)迄の者に限る。但し、卒業年度を超えず、編入などの理由で他地域連盟からの転入者に関しては、既存の登録年数を加算する。また、学生剣道以外の各職域大会に出場する資格を有する者の出場は認めない。

11. 試 合 ・ 審 判 規 則

全日本剣道連盟の剣道試合・審判規則、細則、運営要領および新型コロナウイルス感染症が収束するまでの暫定的な試合審判法並びに本大会の申し合わせ事項により行う。

1. 試合・審判規則の実施に関して疑義がある場合はその試合者の試合終了までに、監督を通じて審判主任又は審判長に対して異議の申し立てが出来る。
2. 異議の申し立ての権利は監督のみが持ち、監督不在の場合は監督代理者をおくことができる。
(監督代理者は事前に本部に届けられている者に限る。)

12. 大会申し合わせ事項

1. 登録について
 - 1) 試合に出場する選手は指定された期日までに所属連盟に選手登録をしなければならない。
 - 2) 不正登録により選手資格を得たものはこれを取り消す。
2. 名札について
 - 1) 大学名及び個人名を記入した正規の名札を着用しない選手は出場できない。
 - 2) 同じ大学に同姓者がいる場合は、苗字の右下に区別できる名前の一字を入れること。
尚、上記に違反する選手が発覚した場合は、不正用具使用者として扱い、その試合を負けとし、相手に2本与え、既得本数及び既得権を認めない。また、当該選手のその日の大会出場は認めない。
3. 竹刀について
 - 1) 竹刀の検査は所定時間に各試合会場の竹刀検査所において行う(検査済みシールを貼る)。
 - 2) 竹刀の検査は、竹刀に大学名と氏名を明記し一人3本(二刀の場合、大刀・小刀それぞれ3本)まで検査の申請ができる。
 - 3) 規格外竹刀の使用者は、相手に2本与え既得本数および既得権を認めない。また、当該選手のその日の大会出場は認めない。
4. タビ・サポーター等の使用について
 - 1) 医療上必要と認める場合に限り、見苦しくなく、かつ相手に危害を加えない範囲において、これを認める。
 - 2) 使用する者は予め使用品をつけた状態で所定の許可書を審判主任に提示し、許可を得ること。
使用できるタビ・サポーターは布製のみとする。尚、テーピングの使用については許可書の提出は不要である。
 - 3) 試合開始後新たに必要になった場合は当該試合場の審判主任の許可を得る。
 - 4) タビ・サポーター等を許可なく使用した場合は、不正用具使用者として扱い、その試合を負けとし、相手に2本与え既得本数及び既得権を認めない。また、当該選手のその日の大会出場は認めない。
5. 団体試合でオーダー表通りに出場していない場合
 - 1) 提出されたオーダー表通りに出場していない選手が発覚した場合、その該当する試合を負けとし、相手に2本を与え、既得本数及び既得権を認めない。また、当該選手のその日の大会出場は認めない。
6. 剣道具・服装について
 - 1) 面については、肩関節の保護ができる面ぶとんの長さが確保されていること。面紐の長さは、結び目から40cm以内とし、違反者に対しては反則を与えその場で切断する。
面紐の結び目の位置は、目の後方の後頭部中央部分とする。試合中結び目の位置が安全性に支障があると判断した場合は締め直しをする。
 - 2) 小手ぶとんは、前腕の1/2以上を保護しているものとし、えぐり(クリ)の深さは2.5cm以内とする。
 - 3) 剣道着の袖の長さは、自然に構えた状態で「肘」が完全に隠れて袖口から露出しないものとする。

但し、袖が小手ぶとんにかからない程度とする。

- 4) 頭髪が長い場合は、髪を束ねて、背中が目印にかからないようにする。
- 5) ミサंगा、パワーバランス等の剣道に必要なものは身につけない。
- 6) 「ポリカーボネイト樹脂積層板装着面」は、全日本剣道連盟が認めたものとする。
- 7) コロナ対策として、必ず、面マスクを着用する。

また、面にシールドを装着する。

(シールドは、下部シールドのみで可。シールド代替の粘着テープ等の使用は不可)

7. 蹲踞について

立ち膝についての蹲踞は認めない。

8. 補水休憩について

延長戦は 3 分で時間を区切り、延長 3 回目終了の合図で、審判長又は審判主任が主審を呼び、休憩時間を取るよう促す。選手は立ったまま納刀し、面を取り休息をとる。その間、監督からの指示等は禁止する。5 分経過後、審判長又は審判主任の指示により試合を再開する。

- | | |
|-----------|---|
| 13. 審判員構成 | 全日本学生剣道連盟加盟大学卒業生を以て行うことを原則とする。 |
| 14. 表彰 | 男子 1 部・2 部とも、優勝・準優勝・第 3 位 (2 チーム)
女子優勝・準優勝・第 3 位 (2 チーム) |
| 15. 全日出場権 | 男子 1 部校の上位 7 校は、全日本学生剣道優勝大会、女子上位 6 校は、全日本女子学生剣道優勝大会の出場権を得る。 |